

JR北海道の無人駅「上幌延駅」と「安牛駅」の廃止受け入れについて

JR北海道では、持続可能な鉄道事業運営に向けた経営努力の一環として、宗谷本線における「極端に利用の少ない無人駅」29駅について、JR北海道として維持管理できないことから、昨年12月、関係自治体に対して、対象駅の廃止または自治体による維持管理（経費負担）のどちらかを選択し、その方針を本年3月までに報告するよう要請がありました。

町内での廃止等対象駅は、幌延駅を除く7駅であり、町の考え方は次のとおりです。

- ・ 7駅すべてを維持管理することは、経費・人的負担から困難
- ・ 地域の足として一定程度の駅は存続が必要
- ・ 秘境駅などを活用したまちおこしの推進

上記の考え方のもと総合的に検討し、「上幌延駅」と「安牛駅」の廃止を受け入れ、これら以外の5駅「下沼駅」、「南幌延駅」、「雄信内駅」、「糠南駅」、「問寒別駅」は自治体維持管理駅として存続する方針（案）としました。廃止方針（案）とした2駅の理由は次のとおりです。

- ・ 利用が僅少であること
- ・ ホームが盛土形状のため維持管理経費が比較的高額であること
- ・ 隣接する南幌延駅での乗降が可能であること

これらの方針（案）をもとに、対象となる地域住民皆さまに対象駅のご利用状況や今後の必要性などのご意見を伺い、概ね町方針（案）をご了承いただいたことから、このたび、町として上記のとおり方針を決定し、JR北海道へ報告しましたので、町民皆さまにお知らせいたします。

また、存続方針とした5駅の維持管理経費については、平成29年度から秘境駅維持等のため「ふるさと納税」の取組として始めた「あなたが守る秘境駅プロジェクト・マイステーション運動」寄附金のよりいっそうの展開・活用を図り、必要な財源確保に努めてまいります。

本来であれば、町方針について住民説明会等により町民皆さまにお知らせすべきところですが、新型コロナウイルス感染症対策の関係もあり、このお知らせでのご説明となりましたことお詫び申し上げます。

なお、今後は令和2年度中に廃止または自治体維持管理に向けた諸手続きを進め、廃止駅は令和3年3月のダイヤ改正をもって廃止となります。

町では、地域の足で町民皆さまにご不便をお掛けすることがないように地域公共交通の整備に向けた検討を進めるとともに、存続する無人駅等を活用した各種取組を進めながら、鉄道があることで地域に旅人が立ち寄り、そして地域の皆さまとの交流を通して「幌延町って素敵なお町だね…」と全国の皆さまが「幌延ファン」となっていたりするような地域づくりを目指してまいりますので、町民皆さまのご理解と引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

令和 2年 3月27日

幌延町長 野々村 仁